

報恩謝徳

部長会報⑪ 

平成31年1月7日文責今村

次回の部長会は2月18日(月)

★東福岡高校、熾烈な競争争い…★

先日の部長会でのビデオ・・・。

「～潜入！名門の扉～ 強豪部活動に受け継がれる遺伝子」番組名：スポーツクロス

2015年12月11日(金)

抜粋

「もがいて もがいて もがき抜いた3年間は そのあとの僕にとって 何よりの財産だった」

長友佑都

東福岡高校は水泳部、陸上部、ラグビー部、バレー部等いわゆる部活動の名門高校である。多くのスポーツ選手を輩出しているが、長友佑都もその一人だ。東福岡高校の生徒は、何を考え、部活動に取り組んでいるのか。

～熾烈な競争意識～

①部活動同士の意識

「学校の中での戦いというのは、暗黙の中でありますね。」サッカー部総監督：志波芳則
校舎の一角にあるトロフィーと優勝旗が並んだ場所を指しながら、志波監督は話す。

学校内では、部活動同士が意識して、切磋琢磨しながら励んでいる。

「色々な部活動の中で考えている事とか高いレベルの話は勉強になる」

ラグビー部部長：ウォーカー・アレックス拓也（3年）

「ほかの部に刺激を受けて自分達も頑張らないといけないと思う」

バレー部部長：金子聖輝（3年）

「今年はサッカー部が弱いと言われていて、そこはみんな意識して絶対に黙らせるという気持ちでやってきて、今こういう結果が出てきているのでこの気持ちを続けていきたい」

サッカー部（U-17GK）：脇野敦至（3年）



②部活内での意識

東福岡高校のサッカー部に着目すると、部員数は280人いる。その中で、ベンチ入りできる人数はわずかである。

「下からの押し上げに負けないで、自分達もレベルアップしていかないとという気持ちも強くて本当に良い緊張感の中で練習できています。」

サッカー部（キャプテン MF）：中村健人（3年）

「強いのは分かって東福岡に来た、自分がどれだけやれるか、

本当にレギュラー取ってやるという気持ちで・・・」

サッカー部（DF）：砂原一生（2年）



「これから社会に出ていく中で厳しい競争が待っている。好きなサッカーを通じて、

壁にぶち当たった時に乗り越えられるだけの力を身に付けて欲しい」

次回は、「ミーティングの進め方」として、先日載せたファシリテーター役を用いたミーティングの例を紹介したいと思います。